

研究・調査報告書

報告書番号	担当
562	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳) Allelic Variation in TAS2R Bitter Receptor Genes Associates with Variation in Sensations from and Ingestive Behaviors toward Common Bitter Beverages in Adults TAS2R 苦味受容体遺伝子のアレル変異は成人における共通の苦味飲料の感覚と摂取行動の変化と関連する	
執筆者 HAYES John E., WALLACE Margaret R., HERBSTMAN Deborah M., BARTOSHUK Linda M., KNOPIK Valerie S., DUFFY Valerie B.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Chem Senses, Vol.36 No.3 Page.311-319 (2011)	
キーワード TAS2R 苦味受容体、アレル変異、アルコール摂取	
要 旨 ヒトにおける 25 種類の苦味受容体とその遺伝子 (<i>TAS2R</i>) は高度なアレル変異を含み、食料の苦味成分への反応に影響を与える可能性がある。1 つの苦味成分の苦味認識に基づく表現型と食嗜好への関連が 50 年以上前に報告されている。もっともよく研究されているのがプロピルチオウラシルであり、 <i>TAS2R38</i> やその他によって影響が媒介されている。平均年齢 40.9 歳の 96 名の成人について、 <i>TAS2R</i> 変異と苦味飲料の感覚、好み、摂取の関係を調べた。 <i>TAS2R3</i> 、 <i>TAS2R4</i> 、 <i>TAS2R5</i> のハプロブロックがエスプレッソコーヒーの苦味への多様性に関連していた。グレープフルーツジュースは <i>TAS2R19</i> の SNP が苦味感覚の増加と好みの低下に関係した。 <i>TAS2R16</i> の SNP とアルコール摂取の関係が認められ、 <i>TAS2R38</i> とアルコール摂取との関係も確認された。 <i>TAS2R</i> 多型は飲料の感覚、好み、摂取に影響を与えることが明らかになった。既存のリガンドが不明な場合に食品や飲料を用いて行う研究も有用と思われる。	